

# 火曜会通信

第90号

発行日：令和3年8月1日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧1-1-1

伊丹市教育委員会事務局内

## 特集 「町の小さな文化財」の シリーズ掲載をふりかえって

街中には、石像、地蔵、祠、水門、門柱、塚跡、トンネルなど、歴史を伝える痕跡が残されています。シリーズ「町の小さな文化財」は、現在を生きる私たちに伝えようとする先人たちの思いを拾い集め、これまで21回掲載されました。シリーズをピックアップして、振り返ってみましょう。

①	行基橋の親柱
②	昆陽寺 兵卒の石像
③	清水橋の五輪塔
④	荒牧トンネル一戦争の遺産
⑤	池茶屋の北向き地蔵
⑥	市役所北広場の水門
⑦	伊丹町町村境の石碑
⑧	昆陽池 殺生禁断の石碑
⑨	昆陽池の守護神 行波大明神
⑩	池尻村 堀切門樋跡
⑪	旧制伊丹高等女学校の門柱
⑫	口酒井の無念塚
⑬	おやまと侍門の前の愛宕さん
⑭	鴻池・昆陽の力土塚
⑮	加茂井の名残り 瀧地蔵
⑯	池尻 尾なし堤の水神社
⑰	口丸稻荷
⑱	東宮御野立所碑と軍行橋
⑲	北村水源池
⑳	南野平塚古墳
㉑	御願塚の水車精米所跡

第1回は火曜会通信61号(平成26年5月1日号)の「行基橋の親柱」から始まりました。

橋といつても、用水路に石板を渡したわずか1.5m位の小さな橋ですが、縁石の面には「大正十四年乙丑年十月下旬」の文字が刻まれています。その頃、辺りは現在のように道路も住宅もなく、田園地帯が広がっていたことでしょう。



第4話は戦時中に陸軍の貨物専用線として建設された「荒牧トンネル」の話でした。終戦直後には天蓋のない貨車が放置されていて、その貨車で遊んだ思い出が語られていました。同じ軍事関係の話題としては、第2話の「昆陽寺 兵卒の石像」と第18話の「東宮御野立所碑と軍行橋」があります。昆陽寺境内には日露戦争に出征した兵士の凱旋記念碑と乃木大将記念碑があり、明治の戦争に翻弄された村民の様子が偲ばれます。



また、軍行橋近くにある石碑も、明治44年11月の大正天皇の皇太子時代に

荒牧トンネル

**【ボランティアガイドの案内】** 伊丹市内に散在する文化財(史跡)のガイドをご希望される方は伊丹市教育委員会事務局内 文化財担当まで電話(☎: 072-784-8090) または文化財ボランティアの会にメール(ibunbora@yahoo.co.jp) でお申込みください。

行われた大演習の記念碑です。

第13話は「遊女と侍」の心中後に祀った祠と石碑の伝説を取り上げていました。身分の違いで決して一緒になれない悲恋物語を想像すると、何か切ないものがこみ上げてきます。

幕末の頃、伊丹周辺は相撲が盛んだったそうで、第14話では鴻池墓地公園と昆陽の村墓にある相撲取りの墓を取り上げていました。



おやまと侍門の前の愛宕さん

さて、奈良時代に僧行基は昆陽を訪れて灌漑施設を整備しましたが、伊丹台地の歴史は治水や洪水との闘いの歴史とも言えます。各所にある小さな文化財がそれを示しています。シリーズでは治水関連として「堀切門桶跡」・「瀧地蔵」・「北村水源地」、洪水関連として「行波大明神」・「尾なし堤の水神社」・「口丸稻荷」・「口酒井の無念塚」で、解説しています。

この「町の小さな文化財」で19話の投稿いたいている松田さんに、これまでのシリーズについて、質問してみました。

#### ▶シリーズを始めたきっかけを教えてください。

私が火曜会通信の編集担当をしていた当時、掲載記事が集まらないため、自分で記事を書こうと思い、第1回の「行基橋の親柱」を調べたのが始まりです。半ページほどの文章量と決め、『伊丹を歩こう』(旧ガイドブック)には記載されていない「マイナーな文化財」を取り上げることにしました。

シリーズ「町の小さな文化財」は、ホームページ(<http://bunkazai.hustle.ne.jp/>)からご覧いただけます。

#### ▶治水や洪水関連の話題が多い理由をお聞かせてください。

私はもともと土木の技術職で、河川水路・地形などに関心があります。現在のように河川が整備されていなかった昔は、河川の氾濫は頻繁に発生しました。

またポンプのない時代、灌漑用水の確保は生活に直結する極めて重要な問題でした。伊丹市内には、河川・水路・灌漑施設に関する旧跡・慰靈碑・記念碑等が数多くあり、取り上げることが多くなりました。

#### ▶特に印象に残る「小さな文化財」を教えてください。

火曜会通信第66号(平成27年8月発行)の「市役所北広場の水門」は印象に残っています。昭和40年代前半に今池を埋め立てるにあたり、一部埋めずに残存させた今池に水を導く暗渠を構築しました。その設備の一部が地上に突出しています。池の埋め立て水門等の設置以来すでに50余年、埋め立て地に新設した市役所は年月を経て老朽化が進み現在建て替え工事の最中です。このような歴史のモニュメントとして水門設備は今も広場の一角にひっそりと残っています。



最後に、あと何回続くかお尋ねすると、「あと20回は続けてみたい。犬も歩けば棒に当たるよう、市内をせっせと巡って新しいネタを発見するつもりです。」と、意欲を示していました。

今後のシリーズを楽しみにしています。

[ 町の小さな文化財 第22回 ]  
**三平(さんぺい)井組の記念碑**  
 東有岡1丁目

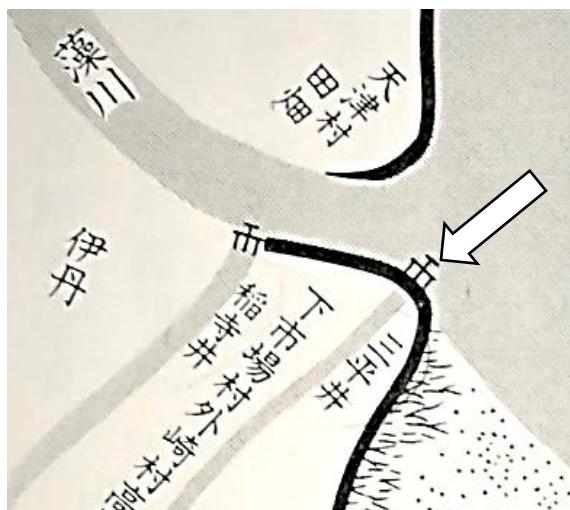


猪名川の神津大橋西詰から 7~80m 上流の堤防内側に、三平井組記念碑がある。

三平井は 16 世紀、中世末頃の創設と言われている。その名称は三平という人物に因んだものである。現在、井組は尼崎市の御園、上坂部、森、南清水、上食満の5村落で構成されている。

もともと三平井は駄六川から取水していたが河川改修により樋門を撤去、農地の減少で灌漑用水の需要が減ったこともあり、昭和52年にポンプ揚水に切替えた。これを記念するために設置した碑である。

現在も河川の水質保持のため、三平川に汲み上げた地下水を放流している。



寛延元年(1748) 猪名川・藻川筋用水井絵図の部分 矢印が三平井の樋門  
 図中の「藻川」は現在の駄六川

### 三平伝説

民衆の窮乏を救う義民の話が各地で伝承されているが、三平井には三平伝説が語り継がれている。

……天正3年(1575)の頃、旱魃(かんばつ)で村の住民は苦しんだ。伊丹の取水口に新たに伏樋を設置して水を引くことを時の領主に願い出たが許されなかつた。そこで三平という浪人が村を救うために百姓を手伝わせて、一夜のうちに底を抜いた四斗樽をつなぎ伏せて取水した。三平は許可なく堤防を破った罪を一身に引受け自害した……。

昭和7年(1932)頃に三平を顕彰する記念塔が建てられ(尼崎市御園)、毎年三平の命日に供養の法要が営まれている。



三平記念塔 (尼崎市御園)

### 水論争

三平井組は三平井の下流で取水する大(おお)井組とは再三水論争を起こしている。

天正20年(1592)には双方の農民が藻川の河原で槍・長刀を用いた乱闘となり、6人の死者を出す事態になった。双方の庄屋7人がこの責任を問われ、京都四条河原で斬罪に処せられた。

2つの井組の取水場所である猪名川と藻川の分岐地点付近では水流が洪水のたびに変化し、先例となる分水の取決めが難しかった。このため江戸期になつても渇水、流路の変化の度に論争が繰り返された。 (松田 記)



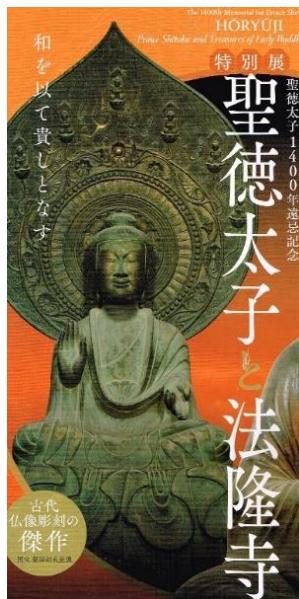
## 聖徳太子1400年遠忌記念

### 「聖徳太子と法隆寺展観覧から仏教を考える」

高木博美

NHKの「日曜美術館」という番組で「聖徳太子と法隆寺展」をとりあげ、「1400年記念で、100年に一度の展覧会です」と言っていたので、5月末奈良国立博物館まで出かけた。

聖徳太子は昭和の頃の1万円札で馴染みの顔。遣隋使や十七条の憲法で知られているが、



今回は法隆寺展とあるように聖徳太子と仏教について考える。

聖徳太子は、蘇我氏血筋の皇子である。父方の祖母も母方の祖母も蘇我氏出身。蘇我馬子は大叔父にあたる。蘇我馬子は日本古来の神道を奉ずる物部守屋と対立し、争いの末蘇我氏が勝利。蘇我氏が政治の実権

を握ると同時に、蘇我氏によって擁立された推古女帝の摂政として聖徳太子が活躍する。

仏教普及と関連するものは、病で亡くなった父用明天皇のために法隆寺の建立と、物部氏との戦いで勝利祈願を発願とした四天王寺の建立がある。

また、仏典の解釈を記した「三経義疏」など有名である。

今回の「聖徳太子と法隆寺展」でまず紹介するのは飛鳥のアルカイックスマイルの典型、「薬師如来像」。

これは法隆寺金堂に安置されている。その穏やかな微笑みに、戦乱の世と疫病の世を経験した聖徳太子が仏教という新しい信仰のもと、世の中を治めて行こうとする意思とともに、渡来系の仏師の圧倒的な技量を示す仏像でもあったのであろう。

「和を以て貴しとなす」を地でいくような柔軟な表情である。

しかし私が圧倒されたのは、「羅漢座像」である。釈迦入滅の涅槃に際し、それを嘆いている像。

これも法隆寺にあるものだが、古代にも近現代にも通ずるリアルな感情描写があったとは！塑像といって粘土で作成された像である。展覧会で一番心に残った仏像であった。



羅漢座像

像だけでなく、いろいろな書も展示されていた。その中で聖徳太子が仏典の解釈を書いたという「法華經義疏」。(写真で紹介できなくて残念)角が丸く柔らかい感じの筆跡が意外で、聖徳太子に親しみを持った。

聖徳太子が日本に取り入れた仏教は「大乗仏教」というもので、特に太子が注釈をつけた「法華經」「勝鬘經」は在家(出家していない)でも仏教の真理に近づけると説いている。

仏教を日本に取り入れ広めた聖徳太子の1400年の節目に、今年度の分科会「歴史会」が仏教をテーマに学習することになった。今回の聖徳太子展が重なって、より仏教についての興味が出てきた。今年度の歴史会の学習が楽しみである。興味ある方は、歴史会に参加してみませんか？

寄稿

## 電電公社の「洞道(とうどう)換気塔」

足立 繁

旧西国街道と五合橋線との交わったところに、煙突の様なものが立っています。これは、地下にNTT西日本の通信設備「洞道(とうどう)」があり、その換気用の塔です。

以前、国の経営する公共企業体に「三公社」というものがありましたが、中曾根内閣の時に民営化となりました。

「国鉄」はJRグループに、「専売公社」は日本たばこ産業(JT)に、そして「日本電信電話公社(電電公社)」はNTTグループとなりました。

伊丹市内に電電公社の施設が伊丹市悠紀町(西台3丁目)と伊丹市大鹿野上(大鹿7丁目)



現在の換気塔



以前の換気塔



の2ヶ所にありました。今では、どちらもスーパーマーケットになっていて、当時の面影はありません。

付近の地下にはケーブルが通っていて、地上で見られるこの「洞道(とうどう)換気塔」は、過去に電電公社が存在したという名残と言えます。

五合橋線の自転車レーン整備の時に古い塔を撤去し、2代目として、少し低いタイプのものに交換されています。

※洞道(とうどう)とは、通信ケーブル・ガス管・送電線などの専用管路トンネルのうち、特に敷設・撤去・保守作業用に大容量で収容できる管径のものを指す土木設備です。

携帯電話の普及で声や情報は電波で飛んでおり、また、光ケーブルの登場や通信技術の向上によって忘がちになっていますが、実際は地下の通信ケーブルは大きな役割を果たしています。主要な通信ケーブルには専用の地下トンネルが設けられていますが、火災・浸水・地震などの災害対策に、気温や湿度など、綿密な保守管理が求められ、その一環として、「洞道(とうどう)換気塔」が必要となっています。

### お薦めの本

### 「感染症の日本史」 磯田 道史

100年前、日本はパンデミックを経験しています。スペイン風邪と呼ばれているインフルエンザです。世界では約5億人が感染したとされ、日本では人口の約43%が感染し死者は約40万人と、現在のコロナ禍による死者とは比較にならないほどの多くの人が亡くなっています。

天然痘、ペスト、日本脳炎、コレラ…。これまで、日本人は様々な疫病と対峙してきました。平安の時代から江戸時代まで、日本の古文書には疫病との闘いの記録が多く残されています。隔離予防や給付金の制度も、疫病と対峙する中で築かれています。

「歴史には今のヒントがある」

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、私たちは過去の教訓に学び、今の経験していることを未来に伝えていく義務があります。 (金川 記)



## 各分科会の紹介(定例会発表)

令和3年6月15日と7月13日の定例会で、分科会の活動紹介が行われました。

■歴史会:2008年から行基上人の研究会「行基会」として活動後、歴史の勉強・研究を引き継いで行こうという趣旨で「歴史会」は出発しました。2021年度は日本における仏教(大乗仏教)をテーマに学んでいきます。

例会日:毎月第3火曜日 いたみホール会議室

■パソコン会:Eメールで連絡し合ったりガイド資料を作ったり、会の活動にパソコンやスマホは欠かせないツールです。持っているけれど、使い方が分からぬという会員が集い、操作の疑問を話し合いながら勉強しています。

例会日:毎月第2、4木曜日 ラスタホール

■紙芝居 どんぐり座:伊丹の文化財や昔話・民話をアレンジして、紙芝居・ペープサート(人形劇)を創作し、小学校や公民館などで無料公演しています。みんなで協力しながら、楽しく活動していますので、是非ご参加ください。

例会日:毎月第3火曜日 ラスタホール

■古文書会:江戸時代、武士はもちろん農民や町民も読み書きを学んでいました。だから、日本人の識字率は高い水準でした。古文書を学習することで、当時の政治、文化や日々の暮らしを体現してみませんか。

例会日:毎月第1水曜日 スワンホール

※会員は参加自由ですので、分科会に参加して活動の幅を広げてください。

## 活動記録 (5月~7月)

【定例会】・5/18(火)・6/15(火)・7/13(火)

【歴史ロマン体験学習支援】・7月10日(土)スウェードで小物入れを作ろう・7月31日(土)たたいてつくろうスプーン

【有岡城跡の清掃】・4/27(火)有志で実施

## 【研修サロン班】(文学碑の勉強会と屋外研修)

「市内にある文学碑を学び、屋外研修として現地を巡る」活動を引き続き行いました。

メンバーたちが分担を決めて発表し、各人の持ち味を活かしたガイドをしていました。

- ・第3回文学碑めぐり 5/14(金) 郷町北部～緑道
- ・第4回文学碑勉強会 5/20(木) 緑ヶ丘公園～瑞ヶ池～  
文学碑めぐり 6/3(木) たんたん小道
- ・第5回文学碑勉強会 6/17(木) 昆陽池・奥畠緑地  
文学碑めぐり 6/23(水)
- ・第6回文学碑勉強会 7/1(木) 千僧～昆陽～昆陽寺  
文学碑めぐり 7/9(金)
- ・第7回文学碑勉強会 7/15(木) 猪名川沿いの文学碑と小さな文化財他



## 今後の予定 (8月~10月)

【定例会】・8/10(火)・9/14(火)・10/12(火)予定

【歴史ロマン体験学習支援】・8月21日(土)蒔絵で小皿を華やかに・8月28日(土)機織りに挑戦・9月11日(土)マーブリングで飾ろう・9月25日(土)箸をつくろう  
・10月16日(土)ハロウィン・ランタン

【研修サロン班】勉強会 9/17(金)・10/7(木)・10/15(金)  
屋外研修 9/30(木)・10/21(木)